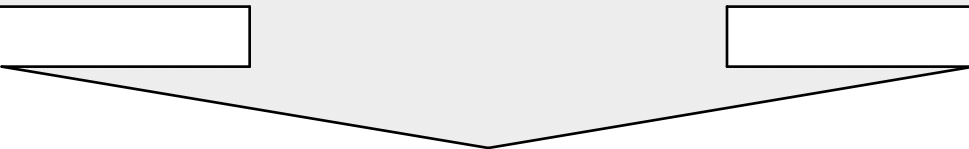


不登校サインを見つけるポイントはここだ！

あなたは、不登校になる前のかすかなサインを見つけたいと考えたことはありませんか。

サインは、言葉や行動にはっきり表れることもありますが、そうでないときもあります。はっきりと表れたときには、不登校の初期段階になっている場合もあります。そこで不登校になる前に、児童生徒が発しているかすかなサインに気付き、その前兆をよみとることができたならば、進行する前に何らかの手を打つことができると考えられます。



ポイント ①

心理的側面に視点を

外見（服装・髪型・持ち物など）、表情・態度、作品、友だち関係など、言葉ではないサイン、つまり非言語的サインに、まず気付くことです。今までとは何か異なるところを感じとることです。そして、それを気にかけることです。

次に、気にかけて「どうしてそうなのか」と考えるようにします。そのとき大切なことは、サインそのものに視点をあてるのではなく、「そうせざるを得なくなった心理的側面」に視点を当てるのが大切です。児童生徒からの非言語的サインは、「声なき訴え」であるととらえることが重要です。

ポイント ②

繰り返される言葉を

気になっていることがあると、会話の中に同じような言葉が繰り返し出てきます。本人は、気になっている部分に気づいていないこともあります。または、気になっているけれど認めるのを避けたり、認めようとしなかったり認めたくない場合もあります。しかし、気になる言葉は、何らかの言語で繰り返されるので、そのことに視点を当てて聴くようにすることです。

繰り返される言葉（キーワード）に気付くことは、子どもの内面を知る近道となります。つまり繰り返される言葉は、子どもの心の扉を開ける鍵なのです。

ポイント ③

気になるものを

不登校児童生徒の多くは、気持ちの中に「ひっかかるもの・気になっているもの」をもっています。その前兆にある子どもも、どこか「気になっているもの」をもっていると考えられます。何が気になっているかということは子どもによって異なりますが、そのことで心が揺れているということを理解しておくことが大切です。

教師がそういう気持ちで接していると、教師側にも「あれ、何か感じるものがあるぞ」という思いが出てきます。つまり、「気になるもの」がわき上がってくるのです。そのわき上がったものを考えることが大切なのです。

その「気になるもの」は、児童生徒理解の糸口となる場合があるからです。